

会議等名	平成 27 年度 第 5 回 海老名市公共施設再編計画策定委員会
日 時	平成 28 年 2 月 25 日(木) 14:00~15:40
場 所	海老名市役所 3F 政策審議室
出席者	<p>委 員：藤田委員長、加藤（晶）委員、 河野委員、佐々木委員、城向委員、山本委員 事務局：財務担当理事 清水 昭 財務部長 秦 恭一 財務部次長 鴨志田 政治 企画財政課長 伊藤 修 企画財政課財施係長 一杉 幹也 企画財政課政策経営係長 石田 恵美 企画財政課政策経営係主任主事 久保寺 規雄</p> <p>傍聴者：1 名</p>

概 要：

1 開 会

2 議 題

- (1) 白書における人口推計と海老名市人口ビジョンについて
- (2) 再編計画の構成案について
- (3) 各種施設データについて

資料に基づき、事務局から (1)、(2)、(3) の議題について説明。

3 議事内容

- (1) 白書における人口推計と海老名市人口ビジョンについて
資料に基づき、事務局から説明。

《質疑・意見等》

(委員) 人口だけで将来を展望することは難しいと考える。IT化も進み、人の考え方も、時代とともに変わっていくと思われるため、どのような社会になるのかについての想定を示してもらった上で検討した方が良いと考える。

(委員長) 人口ビジョンは、将来どのような社会になるかを説明するひとつの視点として人口を捉えたものである。今後、どのような社会になるのかについては、国の研究所などの報告が出てくるものと考えるが、この点について、本委員会で協議することは難しいと考える。しかし、公共施設のあり方については、人口だけで考えるものではなく、各委員からご意見をいただき、検討していきたいと考えている。

→事務局から人口ビジョンについて説明したが、市では人口ビジョンとセットで総合戦略を策定している。総合戦略では、4つの基本目標を設定し、人口ビジョンで示した将来人口を目指した方策を示している。

(委員) 人口ビジョンでは、本市の将来人口は現状程度になると予測している。各自治体の将来人口を日本全体で合計すると、1億2千万人以上になるのではないか。

→人口維持するためには出生率 2.07 を超える必要がある。また、他市の人口ビジョンを確認すると、減っていく方向にある自治体も多くみられるため、全国の集計値で考えると、人口は減っていく方向にあると考える。

(2) 再編計画の構成案について

資料に基づき、事務局から説明。

《質疑・意見等》

- (委員) 「最適化」という言葉のイメージが分からぬ。子どもが減るから施設を減らすという考え方と、減るからこそ子どもを増やすために、子ども向けの施設を増やすという考え方がある。どのように考えれば良いのか。
- 社会情勢や市民ニーズに合致する質と量を確保するとともに、財政的に保有できる施設量にしていくことが「最適化」であると考えている。
- (委員) 今の説明は、市民満足度の総和を最大化したものを「最適化」と捉えたら良いのか。
- 満足度の総和だけではなく、市として持つべき物なのかという視点も必要であると考える。
- (委員) それは手段の問題である。サービスが必要であると決まった場合、サービス提供を市でやるのか、民間に頼むのかということの違いである。市民としては、サービスが受けられるかどうかが第一であり、その次にサービス提供者が誰かということになる。
- 将来的には、民間に任せることがベターなものについては、民間でサービス提供することも出てくる。社会情勢を見ながら市としてどれだけの量を持つのかを検討していく必要があると考えている。
- 市民満足度が最終的な目的になると考えられるが、委員のご指摘のとおり、その前段階において、人口構成や市民ニーズ等を踏まえ、施設サービス量を整理していくことになる。その次のステップとして、誰がサービスを提供するのが一番良いのかを検討していくことになると考える。
- (委員) ニーズに見合うだけのサービスの量、質の問題にも関わってくると思われる。こうした視点も含めての「最適化」を検討すべきではないか。
- (委員) 例えば、人口が2／3になった場合、図書館も2／3の面積で良いという考え方と理解して良いか。
- 例えば、海老名市の人口が2／3になった場合、周辺市も同様に人口減少していると想定される。この場合、周辺市も含め、それぞれ1施設ずつ図書館を持つことが最適なのかという議論が出てくる。「最適化」という言葉は、広い意味で捉えており、周辺市と協力して広域で保有できないかという検討も含まれると考えている。
- (委員) 今の「最適化」は、人口と図書館の面積などのバランスについて言っているのか。
- 人口が減少した場合に、公共施設問題の解決策のひとつとして広域化も考えられる。人口が減少した際の施設規模も重要な視点であると考えている。
- (委員) 人口ビジョンによると、人口は減らないという話である。ここでいう「最適化」は、年齢構成が変わることに対してうまく対応するということか。
- 人口ビジョンは、将来の望ましい姿を描いており、確実に担保されるわけではない。人口は減る可能性もあるため、人口の状況や社会状況の変化を踏まえ、一定のタイミングで計画を見直していく、つまり最適化を図る必要があると考えている。
- (委員) 皆さんで意識が違っていると思われる。例えば、「公共」という言葉も人によって定義が違う。市の施設について重要度はどこにあるのか。消防署は絶対に必要である。私は、文化・スポーツ施設は民間がやれば良いと考えている。人によっ

て価値観が違うため、議論することが難しい。市として削れない施設に関する優先度を決めて、削るものを考えていく手順が良いのではないか。消防署、病院、子育て支援施設などは削ることができない。

(委員長) 事務局から示されている再編計画の案では、施設分類ごとに方向性を示すことになっている。具体的な方向性が見えないため、「最適化」とは何かを協議することが難しくなっていると考える。抽象的な議論をしても生産的ではないため、次の議題である、施設分類別のデータ説明をしてもらった上で協議したい。次の議題に移ってよろしいか。

(各委員同意)

(3) 各種施設データについて

資料に基づき、事務局から説明。

《質疑・意見等》

(委員) 市民から利用料を徴収している施設があるが、使用料収入と費用を比較した情報はないか。使用料でどの程度ペイしているのかを確認したい。

→施設コストと使用料収入を比較すると、ほぼ税金負担で施設運営している状況である。使用料収入だけで施設運営を行うとなると 10 倍以上の使用料収入が必要となる。「公共施設使用料等に関する基本方針」に基づいて全ての施設における会議室等の使用料を徴収しても市の費用負担には全く追いつかない水準である。

(委員) 施設ごとに情報提供してもらいたい。

→情報提供させていただく。

→行政はもともと施設の建設費用まで回収する考えはもっていない。基本的には、維持管理に係る経費の一部を回収するという考え方であるが、周辺市の金額を踏まえて設定している。このような視点で設定しているため、経費の数%程度の使用料になっている。

(委員) 過剰なサービスを減らせば、継続して施設サービスを提供できる可能性もある。ひとつの可能性として見ていくべきではないか。

→テニスコートの話がでたので、述べさせてもらいたい。アンケート結果をみると、96%の市民はテニスコートを利用していない。一方で、テニスコートの稼働率非常に高く、抽選になるほど人気の高い施設である。しかし、実際に使っている市民は 4%しか利用していない。この結果をどう考えるのかが必要である。

(委員) テニスコートは公共が行う必要があるのかという議論になる。民間では赤字でできないような弓道場などは公共で行わないと衰退の一途をたどる。テニスコートについては、民間でも行っており、代替が可能であれば廃止しても良いのではないかと思う。この調査結果を見ると、一部の人が利用する施設に税金を投入しているようにしか思えない。ビナスポについても同様であり、利用している市民はほんのわずかである。遠方の方は利用していないと思われる。一部の方が利用する施設に対して市の全員が税金で負担していることになる。税金の投入の考え方の問題になる。

(委員) 民間で提供されているサービスは民間を利用すれば良いということは理解できる。しかし、お金の問題もある。高齢者の視点からすると、ビナスポは私も利用しているが、運動を目的にしているというよりも、健康増進のために利用している。安く利用できるなら、健康寿命を延ばすためにビナスポを利用した方が良い。整備した以上は利用者が多い方が良い。コストの視点も必要であるが、コスト以

外の視点も必要である。

- (委員) 市の考え方も病気になる方を抑制して、健康保険にかかる費用を抑制しようとしている。どこを公共とするのか、定義がはっきりしないため議論がかみ合わない。この点を煮詰めていく必要があるが、この委員会で答えを出そうとすると偏る可能性がある。市民全員の意見を聞いているとまとまらない。この折り合いをどう付けるのか課題である。
- (委員) “このような視点で考えた場合”など条件づけとセットで議論するしかないのではないか。このテーマは、正しい分析をすれば答えが出てくるようなものではない。
- (委員) 先ほどの説明で、老朽化はあまり問題にならないとの説明があったが、小学校などの老朽化は進んでおり、児童生徒の安全を考えれば、積極的に建替えるという判断もあってよい。先日見学行ったが、門沢橋保育園はもっと税金を投入すべきであると感じた。その後、ビナスボに行き、税金の使い方をもう少し考えた方が良いと感じた。
- (委員長) 今後は事務局から施設分類ごとの方向性について案が出てくると考えている。本日は、どんどん意見を出していただき、それをまとめていくことで施設分類別の方向性を検討するプロセスになると考えている。
- 今後の進め方について説明させていただく。本日、公共の概念を定めるべきとのご意見があったが、こうした意見は委員会の意見として市に提示いただくことで計画に反映していきたい。また、今後は、施設分類ごとの意見を伺いながら計画素案に記載する事項について検討を進めていく予定である。施設分類ごとに情報提供等のご要望があれば伺いたい。
- (委員) 提供いただきたい情報であるが、将来人口における高齢者の割合、未就学児割合、小中学生の割合を知りたい。高齢者や待機児童など人数に応じて施設を整備していく必要がある。
- (委員) 資料に記載されている稼働率の出し方を教えてもらいたい。
→各コミュニティセンターなどは、1時間単位で稼働率を算定している。
- (委員) 人によりいろいろな考え方があると思うが、地域によって住んでいる方の意識が違うと思う。文化意識が高かったり、スポーツ活動が熱心な地域でであったり、いろいろあると思う。地域体育館の利用予定の調整をしたことがあるが、土日については利用が集中して稼働率が非常に高くなっている。ビナスボは、球技ができる施設であるが団体に貸し出しを行っていない。なぜ貸さないのか疑問である。市は、個人の健康づくりのための施設としてビナスボを整備しており、団体への貸し出しは検討していないとのことであった。団体に貸すことで、施設をより有効活用できるのではないか。また、有効活用を図るためにPRを充実する必要がある。
- (委員) 世代間の公平性を考えるべきである。次の時代に何をリレーできるのかを考えると、施設を減らせば減らすほど良いと考えている。次世代に何をつなぐかが重要である。例えば、コミュニティセンターは年間1千万円の運営費がかかっている。これをすぐに止めれば、45年で4億5千万円の財源を確保することができる。市民から不満は出るかもしれないが、将来世代に対しては減らせば減らすほどよいと考える。
- (委員) 現状の利用の公平性とともに、費用負担の公平性も含めていると考えて良いか。
- (委員) 将来世代は現世代よりも厳しい状況になるとを考えているため、今から準備してお

く必要がある。また、積み重ねの年数が増えるので、対策を打つのであれば早ければ早いほどよいと考える。

(委員) 何にお金をかけていくのかを決めていかないと、世代間の問題など、議論することが難しい。何に重点化してお金をかけるのかの方向性について事務局から出してもらいたい。

(委員) 私は複合化に賛成である。ビナスポのようなものを作るのであれば、各小学校に複合化を進め、コミセンを廃止して、小学校に入れたらよいのではないか。学童やコミセンを小学校に統合することで、徒歩圏でいろいろなことができるようになる。複合化を進めていくことが一番良いと考える。私は、相模原市に住んでいるが、マンモス小学校があり、公民館、学童施設などが入っている。夜間は照明付きのグランドで、一般貸し出しを行っている。このような施設があれば、施設の偏りも解消するのではないか。照明付きのグランドになれば、夜にスポーツをしたい方もできるようになる。

(委員) 私も複合化を進めていくべきであると考える。災害時の拠点が学校やコミセンに分散化しているのは問題である。65年間で1300億円を市が念出することは難しいと思われる。そうなると施設にかける費用を下げるを得ない。そうなった場合、まず、最初に施設を減らすのではなく、複合化して施設を維持していくコストを下げるという方向性が良いと考える。先ほども話が出たが、消防署などは絶対につぶせない。例えば、南分署は老朽化しているが、唯一のヘリポートがあり、最優先で対策が必要である。まず、将来費用1300億円を市が念出できるのか、できないのかを示し、できないのであれば、つぶせない領域や見直すべき領域についての考え方を、市として提示してもらいたい。我々は自由に意見を言うことはできるが、それではまとめることができないと考える。まずは市で方針を整理していただき、その後、地域に投げ掛けていただきたい。また、無料施設の有料化については、有料化しても数百万しか収入がない中で有料化して意味があるのか、そのような点についても議論できるように資料を用意していただき、我々に投げかけてもらいたい。このままでは、いつになんでも議論を終えることができないと考える。

(委員長) これまでいただいたご意見を踏まえて事務局において検討いただきたい。

→本日ご要望のあったデータで提供できるものについては、次回委員会までに提示させていただきたい。また、事務局としては本日頂いたご意見を踏まえて素案を作成していきたいと考えている。次回委員会のテーマについても持ち帰らせていただき検討し、改めて連絡させていただきたい。

(委員長) 本日の会議は以上とする。

以 上